

第 16 回 I S O E 運営委員会議事概要

- . 月 日 2006年11月8日(水)～10日(金)
- . 場 所 IAEA 本部 C04 IAEA Boardroom (ウィーン、オーストリア)
- . 出席者
 - [ISOE 幹部会]
 - Yves J. Gagnon(カナダ)、水町 渉(日本)、Veli. Riihiluoma(フィンランド)、
 - Carl G. Lindvall(スウェーデン)、Brian Ahier(NEA)、Pascal P. A. Deboodt(IAEA)
 - [ISOE ワーキンググループ議長]
 - Sergio H. Zorrila(WGDA、メキシコ)
 - [ISOE 技術センター]
 - Cristian Lefaire、Lucie D'ascenzo(ETC)、David W. Miller(NATC)、
 - 林田芳久(ATC)
- 各国代表者等 牧平淳智((東京電力)他、約35名

. 議事概要

1 . 関連国際機関の活動 (OECD/NEA CRPPH、IAEA)

事務局より、CRPPH 及び IAEA の活動について報告があった。CRPPH は来年 50 周年を迎えるので、定例会合 (2007 年 5 月末) に合わせて、今後の放射線防護について議論するための特別セッションを行う。IAEA は BSS (国際基本安全基準) の見直しを進めている。

2 . 2006 年の ISOE の活動報告

(a) 技術センター報告

4 つの技術センターの活動成果をまとめて ETC が報告した。

- ・ 2005 年被ばくデータの収集状況
- ・ ユーザーサーベイの結果の整理、分析。
- ・ シンポジウムの開催状況。

2006 年は、北米地域(米国)、国際(ドイツ)、アジア地域の各シンポジウム(日本)を開催。

- ・ ISOE Web ネットワークの開発、運用
- ・ ベンチマーキング訪問
- ・ インフォメーション・シートの発行状況

なお、ATC より、放射線防護の管理に係る OECD/NEA テキスト「原子力産業における作業管理」の改訂の提案、ウェブサイトの文献検索機能強化ツール開発等の紹介を行った。

(b) ISOE ネットワークの開発、利用状況の報告 (E T C)

ネットワークの利用は今年の 5 月から開始されており、現在 400 人がデータベースにアクセスできるメンバーとさいて登録されている。

3．第15年次報告書、及び第16年次報告書作成について

第15年次報告書の作成状況の報告、第16年次報告書作成にむけての準備、発行時期等の議論が行われた。

4．「次期議長」の選出

水町 JNES 特任参事（現「次期議長」）が本会合以降、議長となるので、後任の「次期議長」の選出が行われた。ルーマニアの V. Simionov 氏（Cernavoda NPP）が選出された。

5．WGSP（戦略計画ワーキンググループ）報告

ISOE の参加メンバーの拡大、放出データの ISOE データベースへの追加等についての WGSP での議論の内容が報告された。

6．WGDA 報告

前日に行われた WGDA 会合結果に基づき、WG 議長より報告。Web 開発の Phase 2（線量データ入力システムの開発）の計画等が報告された。

7．CRPPH の専門家グループ EGOE について

NEA/CRPPH（放射線防護・公衆衛生委員会）の3月の会合で EGOE（職業被ばくに関する専門家グループ）の設置が提案された。目的は、政策、規制上の課題を扱うというものである。EGOE への協力の方法について議論が行われた。

8．ISOE の2007年の活動計画

事務局より2007年の活動予定が報告された。この中で、アジア地域シンポジウムの開催、「作業管理」図書の改訂、Web の ALARA ライブラリー検索ツールの開発等が報告された。

9．国別報告

アルメニア、ブルガリア、カナダ、チェコ、フィンランド、フランス、ドイツ、日本、メキシコ、ルーマニア、ロシア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、米国の各国より、被ばく線量の状況、被ばくに影響した事象等について紹介があった。

10．次回予定

次回の運営グループ会合はパリで11月12日～16日に開催することとなった。

11．ISOE 議長の交代

本運営グループ会合をもって、Yves J. Gagnon（カナダ）氏の ISOE 議長の任期が終了して、水町次期議長が第7代議長に就任し、就任挨拶が行われた。

以上